

a 学校教育目標	夢に向かって ともに学び ともに伸びる子どもの育成 ～ かがやけ南 心はひとつ ～	b 経営理念 (ミッション・ビジョン)	【ミッション】(自校の使命) 夢をもち、未来を切り拓く子どもの育成 【ビジョン】(自校の将来像) みんな笑顔があふれる、安心・安全な学校 自分や相手を受け入れ協力して活動、自己決定できる子ども 一人一人の子どもを大切に切磋琢磨し挑戦する教職員
-------------	--	------------------------	--

評価計画				改善方針						学校関係者評価						
c 中期経営 目標	d 短期経営 目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	8月	2月	i	j	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント		
					h 達成 値	h 達成 値	達成 度	評価			イ	ロ	ハ			
確かな学力	主体的・対話的で深い学びを追求する	自ら考え学び合う児童	○改善の視点を明確にした、子ども起点の授業づくり ・深い教材研究に基づく児童の実態把握と表現力の向上と伝え合う場の充実・振り返り(R80)を軸に据えた授業改善を着実に進める。 ・授業・学力向上におけるICTの効果的な活用方法を追究する。 ・組織的・意図的・計画的に授業研究、理論研修を積み重ねる。 ○基礎学力の定着の取組の徹底と個別支援の充実 ・既習事項の学び直しと個別目標を設定した繰り返し学習を継続する。 「チャレンジタイム」「やればできるっ！検定」「きいてねタイム」と放課後の学力補充	研究部	○単元末テスト(国・算)の学校平均点 8月…4月～7月分 2月…9月～2月分 ○CRT全国正答率との比較 ○児童アンケート調査 「自分の考えを図・式・ことばなどで友達に伝えることができた」と肯定的に回答する児童の割合 ○振り返り(R80)の実施 ・振り返り(R80) 自校の評価基準「低・中C以上 高B以上」	①単元末テスト 80%以上 ②全国平均以上の学級 100% ③児童アンケート・項目 80%以上 ④評価基準各80%以上	国語 89 算数 88	国語 88 算数 85	国語 110 算数 106	A B A B	①国語・算数ともに目標値を達成している。学び直しができるよう「やればできる検定」を実施したり、レディネステストの結果をもとに習熟を行うチャレンジタイム・チャレンジ図タイムを全校で取り組んだりすることが、児童の基礎的な学力を向上させている。 ②算数科は全学年達成。国語科は15学級中14学級が達成している。 ③目標値を達成している。自分の考えをもつことはできるが発表に対して消極的な児童は多い。 ④15学級中14学級が評価基準を達成し、目標値を達成することができた。これは、各学年で児童に書かせたいR80を構想し、キーワード化を図る校内研修を取り入れたことにより、板書に明記する用語が明確になったからではないかと考える。R80から逆算式に導入や問いを設定する授業を構想することができるようになり、授業改善も図ることができた。一方で、全職員がR80から逆算式に授業を構想することができるようになり、また、全児童が算数用語を活用した自分の学を振り返ることができるような手立てが必要であると考える。	①引き続き、全校で統一してR80を軸とした授業改善を着実に進めていく。 ②普段の授業を日々丁寧に進めていく。各学年での教材研究が必要。 ③児童に表現させたいことや、そのために、児童に身に付けさせておきたい見方・考え方は何かということに重点を置いて教材研究、授業研究を進めていく。授業以外でも、聞こえる声で話す習慣をつけたり、ペア対話を充実させたりする。 ④R80から逆算式に導入や問いを設定する授業を構想する校内研修及び、職員によるR80の交流を定期的に実施し、キーワード化する用語をブラッシュアップする。また、児童同士のR80の交流も、視点を明確にし、相互評価につながるような在り方を実践していく。	5			・学力の大幅な伸びが見られ、先生方の日頃の丁寧な指導の結果が表れている。結果を子供たちや保護者とも共有し、学力のさらなる定着につなげてほしい。 ・全学年の児童が落ち着いて授業に取り組んでいた。今後も取組の目的や課題を明確にし、取組を継続してほしい。 ・考えをまとめたり表現したりする力を育成することは、児童が今後社会に出て、多様な他者と協働していく上で必要である。これらの育成には、算数科をはじめ全教育活動を通して意図的・計画的に取り組んでほしい。
豊かな心	自他を尊重する心情・態度を育てる	思いを受け止め認め合う児童	○安全・安心な風土の醸成 ・伸びやかな中にも規律ある集団を目指し、学習集団づくりの充実と学習規律の徹底を図る。 ・「南小スタンダード」(挨拶・廊下歩行・言葉遣い・時間を守る・話の聴き方)を徹底する。 ・学校のきまり、生徒指導規程の見直しと改定を行う。 ○学級・学年経営を基盤とした支持的風土の醸成 ・生徒指導の4つの視点(自己存在感、共感的人間関係、自己決定の場、安心安全な風土)を踏まえた児童支援を行い、児童会や委員会、各学年と連携し学年交流の充実を図り、意図的な活動や縦割り班活動等での児童同士のかわり合いを深め、自己有用感を高める。	生徒指導部	○i-checkによる学級満足度 全国平均値との比較 ○児童アンケート調査 「自分にはよいところがある」「よさを友達に認められている」肯定的に回答する児童の割合	⑤「自己肯定感と学級適応感」学級満足度 全国平均以上 ⑥児童アンケート 80%以上	i-check 10/15	i-check 14/15	i-check 93.3	B B	⑤i-checkの結果において、「自己肯定感と学級適応感」学級満足度の割合が全国平均以上が達成できなかったのは、1学級である。また、前回、Eグループ(支援の必要な児童)に位置する5名の児童はいずれも他のグループに属した。また、今回新たにEグループに属した4名は手立てを講じ、来年度に引き継ぐ。 ⑥児童アンケート「自分にはよいところがある」「よさを友達に認められている」において、ともに肯定的評価の児童80%以上の学級は3学級であった。全校での割合は、「自分にはよいところがある」が80.5%、「よさを友達に認められている」が75.7%である。よさを友達に認められている評価が低いのは、よさが何か具体的にイメージができていないからだと考えられる。	⑤i-checkで要支援層に位置付く児童は、個別面談を行い要因を探り、全職員で個に応じた手立てを講じていく。また、集団と個の状態を把握して、それぞれに手立てを講じていくことで集団の中で個を、個から集団を高めていく。各学級が作成したOUシートを支援に生かしていく。 学習集団づくり研修での学びを蓄積していき、教職員が互いに学び合い指導力を高める。 週1回の職員連絡会で、気になる児童の様子(よいところも悪いところも含む)を教職員全体で共有し、関わり、見守っていく。 ⑥全教職員で一人一人の頑張る姿や優しい姿を逃さず認め声をかけていくこと、さらには担任にその姿を伝え、当該児童や学級全体に、学校全体に、そして学校全体に投げかけていく。 児童会や委員会活動の中で児童主体の活動を計画、実施したり、学年間の交流をしたりすることを通して、児童同士のつながりを深め、相手を思いやる心、感謝する心を育てていく。	5			・様々な家庭環境や背景をもつ児童個々の状況を理解しながら、自尊感情を高める指導を組織的に行っているところがよい。支援の児童が減ったのは指導の成果だが、新たな要支援の児童に対してはi-checkの分析を活用するなどして適切な働きかけを講じてほしい。 ・「南小スタンダード」が定着し、全学年の児童が落ち着いて生活できている。今後もこの方針を基本に、安心安全な学校風土を醸成してほしい。 ・児童の自己肯定感の向上にむけて、コミュニティ・スクールを活用していくのではないか。コミュニティ・スクールでの多様な経験や他者との関わりを通して、自分や地域のよさに気付くきっかけとなる面もあるので、指導に生かしてもらいたい。
健やかな体	心身の強さと運動能力の向上を図る	切磋琢磨し高め合う児童	○楽しみながらできる体力づくりの推進 ・児童の運動量を確保に向けた体育科授業改善に取り組む。(基礎体力の向上・実技研修の実施) ・外遊びの励行と充実を図る。(みなみんタイム) ○体と心を育む食育の推進 ・栄養士による食育指導の継続により食への関心を高める。 ・給食もりもりキャンペーン(残菜の減少)の実施	保健部	○児童アンケート調査 「体を動かすことが楽しい」「苦手なものを少しでも食べた」肯定的に回答する児童の割合 ○「給食もりもりキャンペーン」達成率 ○体力テスト全国平均以上の項目の割合	⑦児童アンケート・キャンペーン達成率85%以上 ⑧体力テスト 60%以上	運動 86.5%	運動 82.2%	運動 99.2	B A D	⑦児童アンケートの結果から「体を動かすことが好き」と答えた児童の割合が目標値を下回った。特に、6年生は肯定的な意見が88.1%で全体の目標値より大きく下回る結果となった。5年生は80.1%、4年生は82.7%と目標値を下回る結果だった。学年が上がるにつれて体を動かすことに対して、消極的になることがわかった。また、上半期は熱中症対策のため外遊びや体育の授業を行うことが難しく、9月から、徐々に体を動かせる機会が増えてきたが、休憩時間に外遊びをする児童はあまり増えなかった。 キャンペーン中は学級で声をかけるなど意図的に取り組む姿もあり、残菜も減少傾向があった。また、上半期に比べて完食率は増加している。ただ、低学年の完食率は低かったり、学級ごとで食育を空にしなかったりと課題もある。 ⑧体力テストの結果は全国平均を下回る項目が男子6つ、女子6つあり、基礎体力の向上が課題である。下半期は、耐久力、持久力、跳力の向上を目標に長縄に取り組んだ。授業だけでなく、休憩時間にも、意図的に取り組む児童の姿も見られた。ただ、学年が上がるにつれて、外遊びに参加する児童の割合が減少したり、運動に対して消極的になる傾向がある。	⑦来年度も引き続き、児童が達成感を味わい、体を動かすことに対して肯定的に促されるような取り組みを行う。引き続き、みなみんタイムを継続して行う。今年度の反省を活かし、みなみんタイムの形式を改善することで週に1度は、外遊び等ができる環境をつくる。食育については、今後も継続して委員活動を中心としたキャンペーンの取組や、栄養士の食育指導を中心に、児童の食への関心を高め、残菜の削減に取り組む。 ⑧来年度は、重点項目を絞り、年間を通した取組をすることで、体力の向上につなげたい。また、児童が体力向上に興味をもてるように、重点項目に沿ったイベントを委員会活動と関連させて実施していく必要がある。	5			・記録的な猛暑など天候条件が悪い中、児童会を主体とするなど体を動かす手段について工夫している。地域や外部の方の力を借りるなどして、児童の体力向上を図る取組を継続してほしい。 ・給食の残菜が少なくなるよう、栄養士とともに計画的に指導を進めている。生産者の顔が見えることができるような指導についても工夫してほしい。
信頼される学校	保護者、地域の願いに応え、信頼される学校づくりを推進する	健康でやりがいを持って勤務できる環境づくり	○コミュニティ・スクールの推進 ～みんなの力で せせばなる みなみの宝 育てよう～ ・各学年1活動実施と連携 ・発表の場の確保と近隣施設の活用	教務部	○各学年の1活動以上の実施 ○児童アンケート調査 「地域や学校をよくするために何かしてみたいと思いますか」肯定的に回答する児童の割合	⑨実施率100% ⑩児童アンケート 85%以上	5/6	6/6	100	A A	⑨全学年が発達段階に応じて計画立案し、目標や育成したい力について共有しながら協働して取組を進めることができた。また、実施後に振り返りを行う中で、次時の活動の充実を図ることにつながった。 ⑩教科書だけでは得られない知識や多様な価値観に触れる場となり、社会性を広げることにつながっている。また、活動がきっかけとなり、地域の方とのつながりを深めたり、人と関わる喜びを得たりする児童も多い。	⑨各学年が今年度の活動の成果と課題を明確にし、次年度の計画を立案していく。その際、目的や育成したい力を熟議し活動を仕組んでいくことを大切にすると、また、学校運営協議会での話し合いを深めることで、より充実した活動につなげていく。 ⑩継続したやりとりやつながりを大切にしていきたい。より地域を知り、地域の方との関係を深めていく。さらに、児童の姿や声を学校だけでなく学年通信、校内掲示で発信しコミュニティ・スクールの活動のよさを知らせていく。	5			・地の利を生かし、地元企業との双方向の活動を深めたり、これまでの学習活動をコミュニティ・スクールとして整理・充実させたりしたことがよかった。 ・来年度は、保護者を巻き込んだ活動を展開できるとよりよいのではないかと、多様な方法での効果の発信にも期待している。
			○支持的風土の醸成と自己研鑽による人間力の向上 ・チーム力を活かし、計画的・協働的に業務を推進する。 ・改善を主体的に進め、教職員のワークライフバランスとメンタルヘルスを大切にしたい働き方を追求する。	総務部	○教職員アンケート 「チームとして協働して解決に取り組んでいる」肯定的に回答する教職員の割合 ○勤務時間外の在籍時間が年間360時間未満の教職員の割合(目安) 前期…180時間以下 後期…360時間未満	⑪教職員アンケート 100% ⑫教職員の割合 85%以上	協働 100%	協働 100%	協働 100	A B	⑪組織的な課題解決に係るアンケートによる全職員の3以上の肯定的評価平均は100%であり、目標を達成した。生徒指導等の諸課題の解決では、職員間で速やかに情報を共有し、役割分担をして組織的に対応していることが成果につながっている。 ⑫目標に達した教職員は、上半期より増加した。校内衛生委員会での熟議を通して、個人や学年で終業時刻を定め、タイムマネジメントをしながら業務に当たることができつつある。	⑪全教職員の共通理解のもと、積極的な生徒指導や学力向上等につながる取組を継続して行う。また、職員個々が相談しやすい職場づくりに意識的に取り組むことで、心理的安全性や協働性を保持し、高めていけるようにする。 ⑫校内衛生委員会を活用し、目標の自己設定や運用の工夫に取り組む。また、時間を要しているICTに係る作業については、ICT支援員等を活用し、効率的に進めていけるようにする。	5			・先生方のタイムマネジメント力が向上している。教職員が明るく協働的なところが、よい学校風土を創っている。先生方も疲れたためないようにし、児童と向き合っている。生徒指導事案などに対し、教職員のチームワークを生かして早期に解決を図っている。保護者が相談しやすい学校体制を継続してほしい。

【j:自己評価・評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価・評価】
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。ハ:分からない。